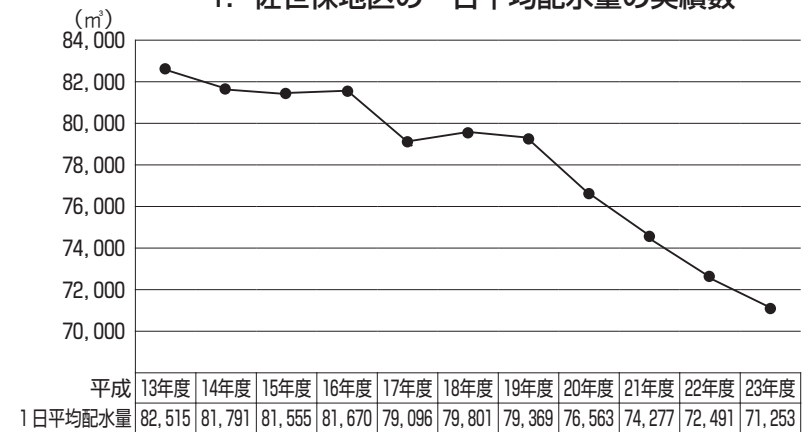


# 佐世保の水は足りている

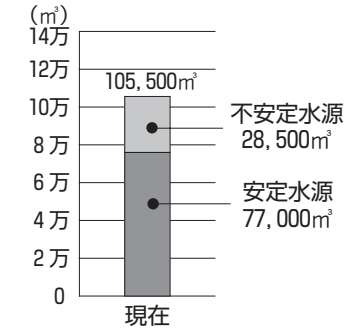
## 石木ダムを作る必要は全くありません

今でも  
使用量の  
1.4倍もある佐世保の水源

1. 佐世保地区の一日平均配水量の実績数



2. その元になる水源は現在どのくらいあるでしょうか？



私たち・佐世保市民は1日どれくらいの水を使っているのでしょうか。佐世保市水道局の資料では1日平均排水量は71153トン(グラフ1)。これに対し、その元になる水源は安定水源(ダム水など)が7

7000トン。「不安定水源」(河川水や湧水など)が28500トンあり、合計すると1日に取水できる水源量は、最大で105500トンもあります(グラフ2)。  
佐世保市民の水は今でも十分足りています。今、やるべき事は1日6000トンの漏水(配水管から漏れる水)対策。1994年(平成6年)の漏水を経験して福岡市や長崎市では漏水対策が急ピッチで進められ、長崎市の漏水率はわずか2〜3%になっています。

佐世保市水道局に掲げられている「石木ダム建設は市民の願い」とは、ほんとうでしょうか。新聞各紙でも「水道局が試算する将来の水需要予測は、近年の水使用量と比べても大きい」と、指摘しています。

「佐世保市の水は足りているのに、どうして石木ダムをつくるの?」と、疑問は大きくなるばかりです。

人口減少で水需要はさらに減少  
市水道局の予測はあまりにも過大です

市水道局は「佐世保市の安定水源は77000トンしかなく、平成29年度には必要水源量が117000トンとなり、40000トン不足するのでそれを補うために石木ダムしかない」と言っています。

しかし、今でも水はかなりの余裕があるのに、これからの佐世保市の人口は2010年に比べ2035年には約7

万人(26.4%)も減ります(グラフ3)。当然水需要も減り、十分すぎるほど足りてきます(グラフ4)。  
さらに、市民の節水努力や節水機器の普及で、さらに水需要は減ってきます。

自然あふれる  
石木を守ろう



強制収用につながる  
「事業認定」申請の取り下げを

「私たちはこの先祖代々続くふるさと・石木に、ただ住み続けたいだけ」という石木の地権者のみなさんの思いは、原発事故で古里にもどれない福島の人たちと同じではないでしょうか。

長崎県は土地の強制収用につながる「事業認定」の申請を取り下げ、石木ダム建設を白紙にもどし、反対の地権者と話し合うことが求められています。

3. 佐世保の人口減少率



4. 人口減少率から見た配水量予測

